

介護福祉への学習意欲を高めるための教育方法 その2

～ゼミ方式に情報処理の技術を併用して～

福祉学科 福原 信子・田中 佑子
前田恵美子・川合百合子

はじめに

本学の教育目的は、「人間性豊かで、介護の実践に貢献できる専門的知識はもちろんのこと、介護福祉をとりまく環境の変化にも対応しうる自主性を持った感性豊かな介護福祉士を養成すること」である。平成10年4月の1期生から、「実習指導Ⅱ」を課題ゼミ形式で開講してきた。この取り組みは少人数が一つのテーマに沿って探求していく中で、学生個々の自主性や創造性を刺激し育てる事を目的として始め、一定の成果をあげている。その結果を本学紀要第35号に発表した。

今年度は、課題ゼミの中心テーマをこれまでと同じく、「高齢者を理解する」とし、その内容を日常生活の基本である「衣」「食」「住」「快」に焦点をあてた。高齢者の生活の歩みを深く学び、高齢者をより深く理解し、寄り添い、適切なコミュニケーションを取りながら、温かい介護が提供できる介護福祉士養成の取り組みの一つとした。

さらに、紀要第35号に発表した時の課題であった、「自分の意見を素直に表現せず、周りの思惑を考えて行動するので、発言が消極的であり、なかなかリーダー性を発揮できないでいる学生がいる」ことに注目した。「自己主張ができなく、周囲の目を気にしている」。これは、自信のなさからくる状態の一つである。このような状態を変えるには相当のエネルギーがいる。これを小グループ学習の中で一つの課題を仕上げるという経験を通して学ばせ、達成した時の充実感と自分にも出来たという満足感を通して体験させたい。また、グループの中での個人の働きについて考え、学んでもらいたい。以上の事を課題ゼミのグループワークの中で学ばせたいと考えた。教師は個々の学生を多面的に観察し、学生から発するサインに注目し、必要な助言・指導を行うこととした。

中心テーマを、生活の中の「衣」「食」「住」「快」として、学年で分担し、それを集合させて一つのものを学ばせようとしたことは今回が初めてであり、教師も目的を達成させるために一丸となって取り組むことにした。

結果、学生全員が研究の成果を情報処理の技術を生かし、パワーポイントを用いて発表する事ができた。テーマを一つにした「衣」「食」「住」「快」のグループ発表も、視覚に訴えることで学生間でも相互に理解しやすく、また共有でき、連帯感、充実感、達成感をより深く体験する事が出来たので、ここに発表する。

I. 課題ゼミの目的

1. 高齢者への理解と共感の心を育てる。
2. ゼミ形式による教員とのふれあいの時間を多く持ち、個々の学生の個性を引き出す。
3. グループワークを体験させ、自己の責任や共同作業の楽しさを学ばせる。
4. チームワークやリーダー能力を培う。
5. チームを決めて研究し、レポートにまとめ研究発表することを体験させる。
6. 学生の創造性、自発性、自主性を育てる。

II. 指導計画

1. テーマは学年全体共通なものにし、サブテーマを設け学生に提示する。学生の希望を調査してグループ分けをする。
 - 1) 1グループ7～8名とする。
 - 2) 希望者が偏ったときは、教員全員で調整をし、人数を平均化する。
2. 各担当教員は、グループのテーマにそって、ゼミ形式で授業展開をする。
3. 研究成果は、冊子にまとめる。
 - 1) 各グループA4用紙20枚までとする。
4. 研究の成果はパワーポイントを使用して発表する。
 - 1) 各グループで質疑応答を含め、20分以内にまとめる。
5. 授業時間数は60時間とする。
 - 1) 2回生の前期2コマを使用する。

III. 指導方針

1. 高齢者の理解を深め、共感の心を育てる。
2. 個人に配慮した学生指導を通じて、学生の創造性、自立性を高める。
3. リーダーシップやグループメンバーとしての行動を理解させる。

IV. 指導の実際

1. 「衣」歴史とファッション
 - 1) 目的

「衣」について何を研究するのかイメージがつかない学生もいる。普段何気なく着用している衣服や、施設に入所している高齢者の衣服について深く考えたことがない。学生7名がそれぞれ衣服についてイメージすることをカードに書き、話し合う中でテーマが明確になり、「衣服の歴史」に焦点をあてた。衣服の移り変わりはその時代の社会性を反映している。その時代に生きてこられた高齢者の時代の服装を知り、施設実習でのコミュニケーションに生かしたいと、興味のあるテーマについて研究するとした。

2) 方法

- (1) 「衣」についてイメージする事をカードに書き、内容を整理し、テーマのグループ分けをする。
- (2) グループ毎に、テーマについて文献検索やインターネットを用いて調べる
- (3) 高齢者から見た現在の若者ファッションについて聞き取り調査をする。
- (4) 研究内容を文章化し「冊子の作成」と「パワーポイントの作成」をする。
- (5) 各人が作成した文章・パワーポイントをグループとしてまとめて発表する。

3) 経過

研究をスムーズに進めるのにリーダー、サブリーダーを決め記録は輪番性とした。テーマを「衣服の移り変わり」「寝巻きの歴史」「着物の歴史」「時代とファッション」「昭和の若者のファッション」「制服の歴史」「行事服・髪型・靴」に決定し、時代は明治・大正・昭和とし、図書館やインターネットで調査した。調査内容をまとめる手段にパソコンを活用し、授業の「情報Ⅱ」で指導を受け、全員楽しみながら取り組んでいた。パワーポイントの作成は学生個人の特徴がみられ、文章作成に時間を要した。「高齢者から見た現在の若者のファッションは？」についての聞き取り調査は、祖父母や知り合いの高齢者を対象に行った。最後に個人の作品をグループとしてまとめるのにリーダーは苦戦していたが、学生各々が自分の役割を果たし協力しあう場面もみられた。

4) 結果

学生は個人の課題について主にインターネットで調査しており、集約するパソコン操作に苦戦していたが最終段階では技術の向上がみられ、パワーポイントは個別性のあるものに出来上がっていた。しかし、各人文章にまとめるのに引用したままで、自分の見解を書くことに努力を要した。

リーダーはそれらをひとつにまとめるのにリーダーシップを発揮し、メンバーも冊子作成時は時間外でも協力し、発表は全員で協調しファッションショーも取り入れ、学生の満足いく発表ができた。

ゼミ終了後の反省会でのグループワークは、自主的に環境づくりをし、ディスカッション、発表内容共に課題ゼミの目的を達成しており、今回の授業が有効であったと評価する。

学生の自主性を尊重することは、大切であり、また難しいことであることの再確認をした。時間配分が上手くいかず、冊子作成の時間が不足し、時間外まで使用してしまった。しかし、後半学生同士が協力し合う姿勢が随所にみられるようになった。この課題ゼミで習得した技術や協力・協調しあうことが目的達成に必要なことを、今後の学生生活や社会で生かしてくれることを願う。

2. 「食」日本の食文化

1) 目的

高齢者を理解し、日々の食生活を豊に支援できるよう、日本の食文化を学ぶ。

2) 方法

ゼミのスタートとして、グループメンバーの総意を集め、意図的に企画する体験を大切にしたい。

- (1) 全員で「ブレインストーミング」をして、自由に、精一杯、意見を出させた。

集まった意見を「KJ法」を活用して、小テーマを絞り込む手法も体験学習した。

- (2) プレゼンテーションに使うパワーポイント作成は情報処理Ⅱの授業と平行して行った。

《高齢者を理解するために「食」からアプローチする》というテーマを前に、先輩たちのゼミの抄録を手にして、日本の食文化ってすごいよね！ 沢山の年中行事にはそれぞれ定められた「行事食」が伝えられているってすごいよね。でも、既に先輩たちがしているから、今回は、高齢者の馴染んできた日常生活の中に伝承されている食文化を探ることにしよう。`高齢者はどんな食卓を囲んでいたのか、`どんなお菓子を食べていたのか、`焼きネギの湿布って風邪に効くのか、`「茶粥」は家でもつくるのか、山菜のことも調べたいなど沢山の意見がでた。KJ法で整理し、4つを選んだ。

3) 経過

- (1) メンバーは8名。1テーマに2名ずつとし、テーマとその意図は以下に示す。

- ①山菜：春が来ればわらび取り、秋には茸、人々は季節を楽しみ、山野の恵みを味わってきた。

昔から伝えられている山野の贈り物について、もっと知りたい。

- ②風邪の時のごちそう：風邪の時、おばあちゃんが生姜湯や卵酒を作ってくれる。

風邪は誰でも罹り得る、昔から伝えられている風邪に良い食事を調べたい。

- ③お菓子：私たちはお菓子が大好き、お菓子は日常生活を豊にする「不思議な食べ物」。

食文化を語るのに欠かせないキーワードと思う。

お菓子の歴史、高齢者の子供の時代のお菓子、今、好まれているお菓子など調べ、高齢者の方々にもお菓子を楽しんで頂きたい。

- ④アンケート：今の高齢者は若い頃はどんな食卓を囲んでいたかアンケートしたい。

- (2) 時間スケジュールを決め、文献学習からスタート。学生たちはインターネット検索を活発に行なった。「情報処理Ⅱ」の教科の課題と合わせて、成果をパワーポイント作成して行ったが、学生たちはパワーポイントの魅力に夢中になって、ゼミの時間の大半を使い込んでしまった感があった。

4) 結果

当大学に情報機器が整備され、学生全員が自分のパスワードで大学のコンピューターが自由に活用できるようになって既に久しい。時代のIT化も進み、学生たちもかなり高いコンピューター処理能力を持って入学してくる。「パワーポイントでプレゼンテーションする」今年の課題も難なくこなした。学生は一人7~10枚のスライドを、非常に個性的に、パワフルに仕上げている。発表の出来不出来からいえば、まだまだスタートラインに立ったばかりで、多くの課題を残したが、「学生全員が発表する」という課題はクリアした。講義の授業ではお喋りしたり、居眠りをしたりしていた学生が、コンピューターに向かって、時間を忘れて懸命にとり組んでいた。何時も目立たない学生がコンピューターの前では、イキイキとしたリーダーの姿をみせていた。新しい友人の輪ができ、親しげに語り、

積極的に協力し合う学生の姿に、グループダイナミクスのすばらしい効果を見た。学生たちはパワーポイントでのスライド作成を繰り返し、動きを変え、カラフルに、かわいく、より個人的に修正することを楽しみ、多いに達成感を得たようである。

3. 「住」くらしの変化

1) 目的

人は最期場を家に求める人が多い。何故それほどに家なのか。見方を変えれば、どのような環境でくらしに来て、今があるのか。こうした予備知識を持つことで、高齢者の理解を深める事ができ、よき聞き手としてのコミュニケーションに生かせるように導く。また、ゼミの中で学生個人のもつ創造性や、自立性を刺激しながら、メンバーが相互に協力し、時には他人の力を借りる事によって自信を持って活動できる事を体験させる。

2) 方法

- (1) 内容を整理するためにKJ法を用いた。
- (2) 6つの島がつくられ、島ごとに担当が決められた。
- (3) テーマについて文献検索（図書）やインターネットを使用した。
- (4) 研究内容を冊子とパワーポイントそれぞれに対して整理し、まとめた。
- (5) 担当分を持ち寄り、グループのテーマに対して整理した。

3) 経過

「住」をイメージさせる時、「住家」より「くらし」として表現する方が、より広い視野で考えられるのではないかと思い、グループのテーマを「くらしの変化」として表示した。KJ法によって「家を構成するもの」「家の病気」「安全に暮らすための工夫」「変化するもの」「家事を効率よくするもの」「環境とりサイクル」の島がつくられ、自選で担当が決まった。

資料は、関連科目やインターネットで集めた。カードの内容を時代の流れとして捉えるには資料が少なく苦慮した。一枚一枚のカードの心を読み取り、色々な角度からキーワードになることばを捜し、多くのものを収集できるように工夫した。収集の時点で、コンピューターに得意な者やそうでない者など能力に差があった。助けを求める者に対しては技術を提供しあい、作業は進められた。全体で立てた計画に基づき「個人の作業」と「全体の作業」を繰り返し、作品創りは進められた。「情報Ⅱ」の授業との絡みもあって、収集したものを各自のテーマ毎に一つの物語として完成させた。

4) 結果

KJ法を使って島を作り、島の関係作りに入る予定であったが、KJ法の本来持つ機能を十分伝えられず、島の寄せ集めになってしまった。しかし各個人のテーマの内容は満たされ、パワーポイントでの表現も解りやすく仕上げられた。個々の研究テーマをグループでの研究テーマとして一つにまとめて仕上げるという段階で、メンバー間での意見交換が十分に行えず、内容の吟味や発表についての細かな打ち合わせが不十分なまま進んでしまった。

体験は成功であれ失敗であれ、その結果を見つめる事によって次のステップが踏めると考える。学生の体験を大切に、待つ姿勢を大事にした。一部の学生が冊子やパワーポイントの外観が整った時点で達成感を味わってしまい、グループ全体での内容の吟味に進めなかった。結果、「くらしの変化」

というテーマではあったが、島として仕上げた作品のまま発表へと持っていくことになった。しかし、そうした雰囲気の中で、グループ全体の目標を下げず、少しでもいい作品をつくりたい、内容を充足させたいという者が現れ、人数も増え、全体が高まる方向に向かって動き出し、地味に努力し、仕上げていった。この事はメンバー全員が責任感・連帯感・充実感とメンバーシップの学びの糸口になったと思う。創造性や自立性、メンバーシップを体験させるには、個人の持つ特性により、一様にはいかないことや、他人の力を借りることにより、自己の世界の広がりを経験させる事の難しさを再確認した。今後の学びの中でその機会を模索しながら教え続けて行きたいと思う。

4. 「快」あそびの歴史

1) 目的

「快」を広辞苑で引くと、こころよいこと、心になうこと、おもしろいこと、と記されている。課題ゼミメンバーは、利用者の生活の活性化に向けてどのような課題を見いだすのかを考えた。そこで「快」というテーマで、「高齢者を理解する」を目標に、遊びの歴史について学ぶことにした。メンバーで話し合いの結果、高齢者や若者の現況調査から実施した。

2) 方法

- (1) メンバー8名をグループA・Bに分け、各グループごとにリーダーとそれぞれの役割を決める。
7月21日の課題ゼミの発表に向け授業のスケジュールを立案し、各授業ごとの内容を記録する。
- (2) アンケート内容を検討のうえ作成し、グループホーム、ディサービスにでかける。
- (3) 幼児教育学科1・2回生、福祉学科2回生にアンケート実施。
- (4) アンケート結果を集計し、パソコンでまとめる。
- (5) アンケート結果より、「あやとり」「こま遊び」が多く、日本と世界のそれらの歴史について、調べまとめる。
- (6) 身体活性化について歌体操を創作する。

3) 経過

- (1) あやとりは日本独自の遊びと思われていたが、世界中特にアフリカ、オセアニア、北南米大陸の文字を持たない社会で親しまれてきた。グループのメンバーたちは、星や月などの天文・自然現象の風景、身近な生き物たち、家や道具などの暮らしのかたちから、神話や呪術的なものまで、遊びという枠を超えコミュニケーションツールとして世界各地に多様に存在していることなどを学び、色の糸でいろいろな造形をつくり、指でくくったり、はずしたりして、紐を手に古い遊びを経験した。
- (2) 日本のあやとりでは、古くから季節の移り変わりを風流に歌や絵画に、四季おりおりの色合いのこめた糸で自然を、あるいは自らの心を表現している。平安時代の貴族のたしなみが現代へと語り継がれている。あやとりは、人と人のかかわりのなかで誰かに教わり、伝承遊びとしての役割を持ち、コミュニケーションの一つの方法として用いられていたことを知った。
- (3) コマは各地の民芸品、木地玩具として作り続けられている。地域の名を冠とする固有のコマは日本と世界の各地に残っている。高度の技は、脳と筋肉の連携を強め、集中力を高める効果がある。

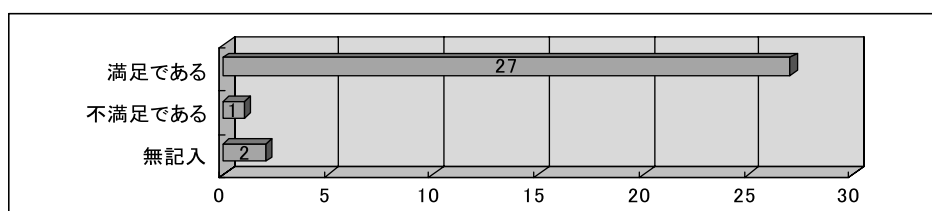
4) 結果

アンケート調査を実施するに当たり、学生自身が施設を決め授業のない時間におもむいた。この過程で、施設の指導者や利用者とのコミュニケーションのとりかたや態度、礼儀など多くのことを学んだ。また、各メンバーがそれぞれの特性を生かし、授業ごとの目標にあわせて行動できるように、リーダーは目配りしながらリーダー性を発揮した。この過程で学生たちは世界の人々のいとなみにも心を通じ、学ぶ楽しさを身につけていった。授業の終わりでは全員が一体になって課題に取り組み、パワーポイントを活用し発表した。リハビリ歌体操の「快」と合わせて、心がとけあい、楽しそうでの課題ゼミの取り組みが学生の視野を広げる事になったと確信する。

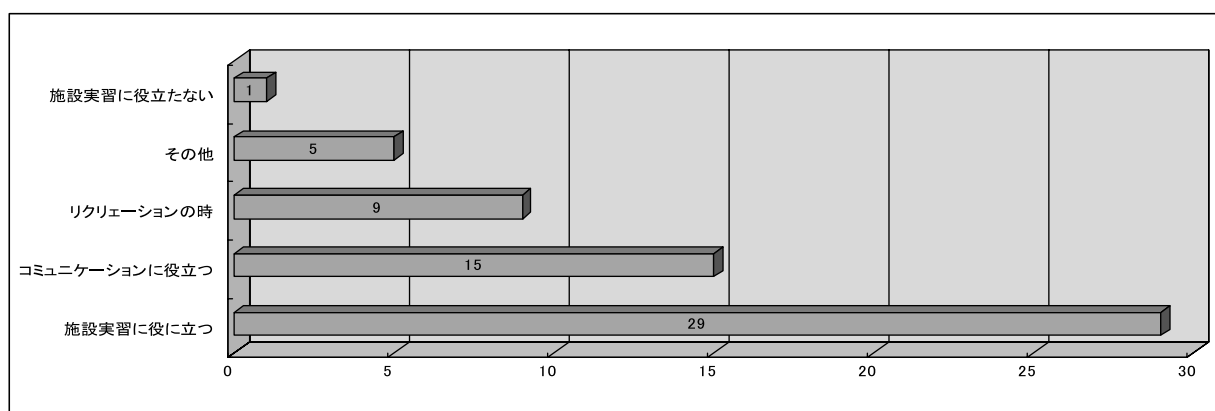
V. 結果

60時間に及ぶゼミ方式を取り入れた学習が終わり、各グループが冊子に研究結果をまとめた。情報Ⅱの授業も時間変更をして2コマ追加し、発表のための技術指導を追加して頂いた。7月14日演奏ホールで総合リハーサルをし、公開授業は7月21日(土) 9:00~12:00に行なった。発表を前に、各グループの色とりどりの冊子が全員の手に渡された。また、この時、全員がステージに立ち研究結果を発表する事が出来た。この日の学生の発表姿勢は、日頃の授業では見られない集中力と、凜とした態度で、自信と満足感に満ちていた。まさに体験を通して、「自分にもこんな事が出来る」という確信を持ったのではないか。発表が終わり、後日、課題ゼミの成果についてグループ毎にまとめをし、「課題ゼミ終了後のアンケート」も実施した。アンケートは100%の回収率を得、その結果は次の通りである。

1. テーマに対しては27名(90%)が満足を感じている。



その理由は、次のようなものである。



施設実習に役立つとしたその内容は、大きく三つに分けられた。

- 1) ミコミュニケーションに役立つ、に対しては、「利用者さんとの話の中に取り入れられる」というものが多い。
- 2) ミレクリエーションの時に役立つ、としたものについては、「何か行事をする時」や「歌体操がリハビリやアクティビティに活用できる」としたものが目立った。
- 3) ミその他、に対しては、「勉強になる」や漠然と「施設実習に役立つ」としたもののや、大きく時代の流れを通して「今後どういうことに気をつければいいのか参考になる」といったものまでみられた。一段階の実習で、介護福祉士の仕事をかいまみており、また、目前に控えた第二段階の実習と結びつけ、力強いものを感じているように見える。

施設実習に役立たないとした者については、実習を通して方向づけをする事によって活用できると思える。

2. ゼミ方式の小グループ学習方法について

- 1) グループ学習についてどう思いますかに対して「良い」「悪い」の回答を設定した。

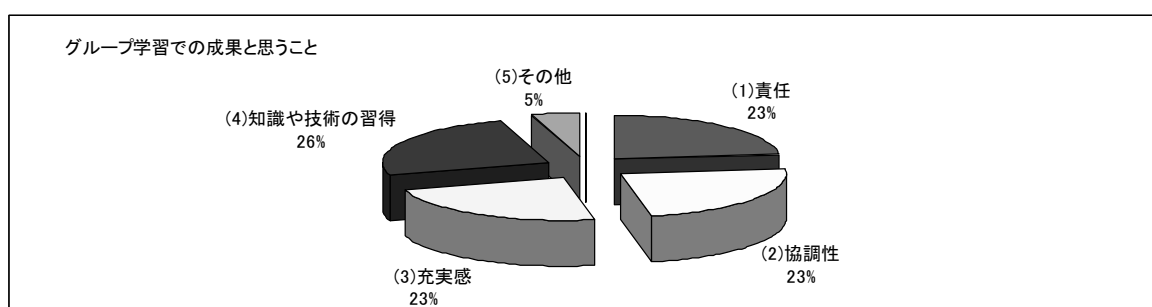
「良い」は全体の90%を占め、その内容は

- (1) 少人数なので理解しやすい「まとまりよい」「やりやすいから」「メンバーとよく話し合える」
- (2) 他の人との関わりから学べる「いろんな人の意見が聞ける・一人ひとりの意見が分かる」というものから「相手の思っていることを含めて、自分の考えを構築できるから」といった意見まで見られた。

「悪い」に対して数は全体の10%を占め、その内容は

- (1) 友達同士の方がやりやすい。
- (2) ぜんぜん楽しくできなかった。
- (3) 仲が良いグループと悪いグループの差が激しいため。というものであった。

- 2) グループ学習であなたが成果だと思うことは何ですかに対しては、次のような結果が得られた。



- (1) 責任の中味は

- ① 分からないことも先生や友達に相談することによってうまくできるということを体験した。
- ② 自分のテーマについて責任を持って調べるといふことの大切さを学んだ。
- ③ 自分の意見を言う必要性について学べた。
- ④ グループワークの中で、任されたことを、自主的にしなければならないということ学んだ。
- ⑤ グループとしてまとめが時間内にきちりできた。

(2) 協調性の中味は

- ①「グループでまとまることができ、前より相手のことを知れた」として、
 - 人の考えを受け入れるようになった。
 - 話したことのない子ともしゃべれる。
- ②互いに理解を深め合う。
- ③気遣い。
- ④皆が一致団結。

(3) 充実感の中味は

- ①楽しくできた。
- ②積極的に発言できるようになった。
- ③発表を成功する事ができた。
- ④集中力がついた。
- ⑤最後まで意欲的にできたこと。
- ⑥知らないことを知識として身につけることができた。
- ⑦リーダーとしての役割を通して、少しはまとめる力がついたかと思う。

(4) 知識や技術の習得の中味は

- ①高齢者について学べた。
- ②コミュニケーションの材料ができた。
- ③一つの事を調べていたら、色々に関連する事が出てきて、多く調べる事ができた。
- ④パソコン操作やパワーポイントを用いての発表の技術が出来るようになった。
というものであった。

(5) その他の中には

- ①これからの施設実習や就職後にも役立つ。
- ②アンケートの場面を通して、高齢者から生きた声を聞いた。

3. 自分の学習成果をパワーポイントを活用して発表できましたかについては、

(1) はい 83.3%

その理由は「情報処理Ⅱの授業で学んだ事をうまく活かす事が出来た。」であった。その内容としては、

- ①初めてパワーポイントを使ったのですがとても良かったです
- ②わかりやすくするために絵の動きに凝った。
- ③興味を持ってもらうために工夫した。
- ④調べて発表したい事をパワーポイントにまとめた。
- ⑤色々な機能を使った。
- ⑥自分の言いたい事をパワーポイントに見やすくまとめられた。

であり、②から⑥は、研究結果をまとめる段階で、創造性が刺激され、自主的に活動している様子が伺える。

(2) いいえ 16.7%

その内容としては

①時間が短かったため全部アニメーションを止めて発表した

②いろんな所で噛んで、声が少し小さいと思った。

などであった。①では、調査した内容を捨てきれずに、パワーポイントの技術の内容を押さえ、個人の主張とグループ内での責任や協調性について学んでいる様子を現しているように思う。②では、発表している自分を客観的に見つめ、さらに高めるためにどうあればいいのかを冷静に見つめていると思える。

VI. 考察

学生は第1段階の実習への動機づけとして

1. 1回生の夏休みに介護福祉士の仕事の理解や講義や「ふれ合い体験」を3日以上体験している。
2. 高齢者を理解する目的で、早川一光先生の「老いる」の講演ビデオの鑑賞。
3. 「私の60年後」をテーマとしたレポートの提出。

を行っている。その中の1. では「施設内の掃除」や「配膳の準備など身の回りのサポート」や「高齢者の方とお話相手」、「レクリエーション活動への参加」などの活動を行っている。そこでの学びは、「コミュニケーションの方法」が半数以上を占めており、次いで「利用者の方との接し方」や、「基本的なマナーや挨拶」というものであった。

その学生が第1段階の実習を終え、第2段階の実習を目前にして、再び「高齢者を理解する」というテーマで研究を進めた。繰り返されているテーマであるが、学生には新鮮なものとして捕らえられ、意欲的に取り組んでいた。学生が取り組んでいる高齢者の方は、戦争を体験し、激動の時代を担ってこられた人々である。こうした人々のこれまでの生活を知る事は、心のやすらぎを支え、閉ざしかけた心の扉を開く大切なキーワードの一つになると思う。ゼミの学びを終えた学生は、高齢者に対して、理解を深めながら、尊敬と苦労をねぎらい、感謝しているのがアンケートの結果から知る事が出来る。その幾つかを紹介する。

☆ 1段階で行った施設実習で着る物に対して、とてもこだわりをもっている利用者がおられたが、その理由が分かったような気がします。その方はその時に流行した服を着て、生活してきた人で、流行に敏感な方だったんだと思います。

☆ 1935年に流行したもんぺは、今でも畑仕事の時などに使われており、店でも売っている。作業しやすく、動きやすいからだと思った。

☆ 約70年前は、掃除・洗濯・食事等、時間をかけて行っていた。それが家電製品の導入によって、女性の家事にかかる負担が軽減された時間は女性が（家庭を出て社会で）仕事を行うきっかけになったと私は思いました。その変化は、私たちに快い環境と、自由な時間を提供してくれています。それゆえに今の社会は、家電製品なしでは生きていけないような「家電商品依存症候群」とでもい

う状況になっているような気がします。時間のない時はもちろん家電製品の力を借りてもいいと思いますが、時間のあるときに、面倒くさいといって機械に頼ってしまうことは、私には、決していい事のように思えません。エアコンもそうです。暑いからといって窓を開ければ涼しくなる時でもエアコンをつけているということがあります。そういったことを繰り返すうちに、便利になってきているだけでなく、工夫する力や忍耐力、体力が失われているように感じます。

☆ 高齢者の方々は、つくしは血糖値を下げる、利尿効果がある。ぜんまいは利尿効果があり、むくみをとる。ふきのとうは抗菌作用、解毒作用、疲労回復の効果があるなど、その山菜にどんな薬効があるかも知らずに食べていたのではないかと思います。結果的に知らない間に健康を維持することになっていたのではないかと思います。自然の恵みであるたくさんの山菜を上手に調理して食べていたのが分かりました。

☆ 今はガスの元栓をひねるだけで火が焚けるけど、昔は暑い日も寒い日も木を集めてきて、それを焚き口に火を焚いていた事が分かりました。昔の人は、いろいろ頑張っていたんだなぁと感じます。

☆ 高齢者の食べてこられた食事について学びました。今では普通となってしまった「すき焼き」や「寿司」がご馳走だと言われる方が多かったです。この時代を生きてきた方は、「食」と言うものが裕福ではなかったんだなぁと思います。

☆ 1942年に衣類切符制というものが実施されており、買いたいものも買えなかったということを知った。今は買いたい物が買えないということはない。昔は苦勞していたんだなぁと思った。

☆ 昭和時代、流行したホットパンツやミニスカートを今の私たちも着ている。しかしデザインが変わっている。今流行している服が、昔の服のデザインを取り入れているのだと思うと、今と昔はつながっているのだと思った。流行は繰り返されているという事が分かった。

☆ 今回私は、「寝巻き」について深く調べました。近頃「パジャマ」を着ずにジャージなどのくつろぎ着で寝ている人が増えていますが、高齢者は何を着て寝ていたのか疑問に感じて調べてみることにしました。実際調べてみると、私たちが着ているような「パジャマ」ではなく「浴衣」でした。日本で生まれた浴衣から始まり、外国の影響、日本の近代化に伴い変化しているねまきの移り変わりや、昔寝巻きとして使用されていたものが現在盆踊りなどの外出の時の着られる物に移り変わっていることに驚きました。歴史とともに変わってきた「寝巻き」を大切にしていきたいです。

☆ あやとりという遊びが、人から人へ伝承され今もなお遊びとして残っていることが、とても伝統的であり、よいことだと思います。様々な遊びが、現代へと受け継がれていることをあらためて知り、人はどんなに困難な時代であった時も「快」を忘れず、生きてきたのだと思いました。

☆ 風邪対策のごちそうには、私の知っていたしょうが湯、たまご酒の他に焼きネギの湿布、大根はちみつ、レンコンしょうが湯などがあつた。さまざまな食材の効能を利用して風邪の症状に合わせて食べられていることを知った。

☆ これからの施設での実習において、現在と大きく変わっているくらしのなかで、ゆっくりとくらししていただけるよう利用者さんとのコミュニケーションに、ここで学んだことを活用していきたいと思っています。

☆ ゼミをやってきて、とても良かったと思いました。グラフ作りがとても大変だったけど、やっていくうちに、だんだんやりがいが出てきて、ゼミに参加することができ嬉しかったです。昔の遊びというテーマで毎週頑張ってきて、徐々にできあがっていく内に、とてもよかったと思いました。こうやって1つの物を作り上げたという達成感は、一生残るものだなあと、忘れられない大切な時間となりました。

☆ 独楽やけん玉もいろいろな遊び方があるのを知り、実際にやってみてすごく楽しかったです。そして昔ながらの歌遊びで、私は、「むすんでひらいて」の担当をしたのですが、ただ歌って手を動かすだけでなく、`そこに足をつけてみようか、とか `ペットボトル持ってみようか、などと工夫して考えていくのがすごく楽しかったです。

というようなものである。机上での受身の学びと違って、学生の心が揺さぶられているのが判る感想の数々であった。

公開授業に参加していただいた教員から「それぞれのテーマは大変興味深いものです。各グループで、それぞれを一つのものにまとめあげるの、学生にとっても良い経験になったと思います。他のグループでも、現場へのアプローチがあるとより深まったのではないのでしょうか。『あそびの歴史』ではアンケート調査と文献調査のまとまりが良かったです。」「全員パワーポイントを使って、舞台上で発表できたことが大変良かった」とのご意見を頂いた。

今回は紀要第35号に発表した時の課題であった、「自分の意見を素直に表現せず、周りの思惑を考えて行動するので、発言が消極的であり、なかなかリーダー性を発揮できないでいる学生がいる」であり、こうした状態を変えるひとつの体験として、この課題ゼミのグループワークを計画した。我々教員もグループを担当しながら他のグループの動きと比較し、落ち込み、自信を失いかけた事があった。そんな時、教員同士が初期の目的であった「自主性を失わないように」グループでの動きを待ち、そうした時間の中で気づき、学びあっていくという「グループワークの体験」ができるよう、辛抱強く待った。我々教員もチームワークがあってこそ乗り越えられた部分も大きい。それ程に信じて待つ事は大変な事であり、そこから得たものも大きい。

結果、講義形式の教室では気づけないことや出来なかった事、また、予想を超える学生の反応を得る事が出来た。話しかけても反応も示さなかった一人の学生が、大きな声で、言葉の一つひとつを明瞭にテーマに沿って発表した。キーワードを出せず資料の収集が出来ない。資料の中から必要なものを選出できない。説明している漢字が読めない。直ぐそばにメンバーがいるのに聞けない。メンバーが指導を求めながら進めているのを見ていながら助けを求められない。近づいていき、言葉をかけしばらく時間を共にするが、何も話さない。いよいよ発表の順番が迫ってくると、自分の発表原稿を握りしめながら落ち着かない。この時、教員はその学生に限定せず、グループ全員の耳元で、「間違ってもいい、聞こえないのが一番（評価が）悪い。はっきり、大きな声で言う。今はそれが一番。」と語りかけた。学生はそのように行動した。初めて刺激に対して反応した。発表後、他の教員から、「今まで挨拶しても返さなかったのに、自ら `おはようございます、と、周囲に対して挨拶するようになった。」と聞かされた。これは、人と交わることに對して何かの障害が消え、むしろその交わりから快いものを得たものと考えられる。

また、講義の時には参加せず、指導を受ける態度も好ましくなく、教員の中でも話題になる学生がいる。その1人は、「ゼミをやってきて、とても良かったと思いました。グラフ作りがとても大変だったけど、やっていくうちに、だんだんやりがいが出てきて、ゼミに参加することができ嬉しかったです。(中略) こうやって1つの物を作り上げたという達成感は、一生残るものだなあといい、忘れられない大切な時間となりました。」という感想を述べている。それ程に嬉しかったものと思う。公開授業の当日学外の友人をゼミに招き、注意を受けている。その時は興奮し、自分の正当性しか主張できなかった。後日公開授業と公開講座の説明を受けている時に、恥ずかしそうに聞いていた。知らない事を知らされるときに、「注意という方法」もあることを学んだと思う。ゼミの学びに加えて、自己を高めるために、他人の力をどのように借り、利用していくのかというテーマを持って学び続けられるよう指導していく必要を感じた。

また、「独楽やけん玉もいろいろな遊び方があるのを知り、実際にやってみてすごく楽しかったです。そして昔ながらの歌遊びで、私は、『むすんでひらいて』の担当をしたのですが、ただ歌って手を動かすだけでなく、`そこに足をつけてみようか、か、`ペットボトル持ってみようか、などと工夫して考えていくのがすごく楽しかったです。」という感想を述べている学生は、ゼミも休みがちで、自分の課題にも向き合おうとせず、逃げ腰の姿勢が続いた。このグループは当初からグループを二分し、リーダーの役割を担うものを増やしていた。そうした事が功をなし、リハーサルの時に欠席していた学生が、発表当日には登校した。さらにプログラム第二部の歌体操の時は、グループの中央に位置し、メンバーに支えられ、照れながらも役割を果たした。自分が参加し振付けた歌体操については、マイクを通し懸命に振り付けの動作を説明していた。まさにグループが一体化し、そのエネルギーは穏やかな、温かい雰囲気として流れ、日頃の学生に対する思いも消え、クラス全体が一体化し、穏やかな、充実した場を演出する事が出来た。長年の生活習慣はすぐには変えることはできないが、こうしたゼミの発表の場を借りて、学生も教員も色眼鏡を外し、希望を失わず関わりを持つエネルギーを充足されたように思える。グループ学習の成果として挙げられている「責任」「協調性」「充実感」の一つ一つの内容は、期待を超える学びをしている。「分からないことも先生や友達に相談することによってうまくできるということを経験した」「自分の意見を言う必要性について学べた」など、ことばでは伝えきれないすごいものをつかんでいると思う。「互いに理解を深め合う」「気遣い」という難しい課題も、公開授業が学びの場のまとめをしてくれたように思う。

さらに「役割を通しての責任感」や「協力し合っていることが良かった」という体験をしなければ味わう事のできないものも、苦しい事を乗り越えるという共感の場を経験し、成長しているように思える。「互いの意見を言い合えたのが良い」「自分では良いと思っけていても、他から見たら悪いという意見を出し合えるから」という、日頃の生活のなかでは逃げ、関わりを避けている事に直面し、体験を通して学びとしている。さらに一歩あゆみを進め、「人の考えを受け入れるようになった」という感想に対しては、この年齢の持つ柔軟な心を感じ、指導している自分たちに対して、強い勇気を頂けたと思う。さらに「相手の思っけていることを含めて、自分の考えを構築できるから」という内容のものがあり、予想を超えた学習の成果を感じている。

公開授業に参加していただいた教員から「それぞれのテーマは大変興味深いものです。各グループで、

それぞれを一つのものにまとめあげるのは、学生にとっても良い経験になったと思います。他のグループでも、現場へのアプローチがあるとより深まったのではないのでしょうか。『あそびの歴史』ではアンケート調査と文献調査のまとまりが良かったです。」「全員パワーポイントを使って、舞台上で発表できたことが大変良かった」とのご意見を頂いた。

まとめ

今回の公開ゼミで見事に成果を現した学生の姿に、我々教員も大きな力を得た。しかし、日々の生活に戻り、この調子で順調に進んでいく事は期待できない。研究内容としても、公開授業としての内容もまだまだ未熟なものである。先日新聞に女優の新井晴みさんの教育想論に「先生一人ひとりが、生徒とどう向かい、育てようとするのか、つまり「人間力（優しさ、大きさ、深さ）が試されると考えています。」が載っていた。課題ゼミの目的としたものについては、見事に反応し、学びを深め、体験できたと思う。学力や表面化している言動にとらわれず、「必ず変化し、限りない成長の可能性を秘めている、ことを忘れず、我々の、もしかしたら本人自身もまだ見つけていない自分の優れた能力を見つける、その努力を続ける事の大切さを再確認した。

付表 過去のゼミ内容を表で示す

期 生	「課題学習」ゼミテーマ	担当教員
6 期生 (2003年入学)	◇中心テーマ『高齢者を理解する』 ●楽しくできる高齢者のリハビリ歌体操 ●日常生活を豊かにする「年中行事」 ●高齢者の歩んできた生活 ～高齢者と良いコミュニケーションをとるには～ ●高齢者が愛唱する歌について ～アクティビティ・サービス学ぶ～ ●楽しみながら学ぶ「音楽セッション」 ～「回想法」を活用したセッションをデザインする～	福原 信子 田中 佑子 高桑 慧子 阿南 國子 伏見 強
7 期生 (2004年入学)	◇中心テーマ『高齢者を理解する』 ●楽しく元気になるリハビリ歌体操 ●アクティビティ・サービスを学ぶ ～アクティビティ・サービスの認知度調査～ ●高齢者の歩んだ時代 ～歌と遊びのアンケート調査～	福原 信子 田中 佑子 高桑 慧子

7期生 (2004年入学)	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者に楽しんでもらえる紙芝居創り ～鶴の恩返し～ ● 楽しみながら学ぶ「音楽セッション」 	寺川佐知子 伏見 強
8期生 (2005年入学)	<p>◇中心テーマ『高齢者を理解する』</p> <ul style="list-style-type: none"> ● みんなで楽しむりハビリ歌体操 ● アクティビティ・セッションを学ぶ ● 高齢者の歩んだ時代 ～高齢者の歌・食生活・仕事・遊びについて～ ● 食について ～口腔体操を学んで～ ● 高齢者に楽しんでもらう「思い出の歌」 ～歌でレッツ コミュニケーション～ 	福原 信子 田中 佑子 高桑 慧子 大西アツミ 前田恵美子
9期生 (2006年入学)	<p>◇中心テーマ『高齢者を理解する』</p> <p>～「衣」「食」「住」「快」よりアプローチする～</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「衣」： 歴史とファッション ● 「食」： 日本の食文化 ● 「住」： 暮らしの変化 ● 「快」： あそびの歴史 <p>※ パワーポイントを活用して発表する</p>	前田恵美子 田中 佑子 川合百合子 福原 信子

(1期生～6期生は紀要35号に記載したので省略する)

参考文献

1. 奈良文化女子短期大学紀要 第35号『介護福祉への学習意欲を高めるための教育方法』
－「実習指導」にゼミ方式をとり入れて－
2. 京極高宣「これからの介護福祉教育について」：
：日本介護福祉教育学会編、『介護福祉教育』NO.22. 2006年7月
3. 黒澤貞夫他『「現場実践」につながる介護福祉教育』～理論と実践を結ぶ教育方法を探る～
：日本介護福祉教育学会編、『介護福祉教育』NO.21. 2006年3月
4. 介護福祉士のあり方及び養成プロセスの見直しなどに関する検討会
「これからの介護を支える人材について」
：厚生労働省社会・援護局2006年7月
5. シシドキオその他「世界のあやとり紀行-精霊の遊戯」：INAX出版2006年12月

